

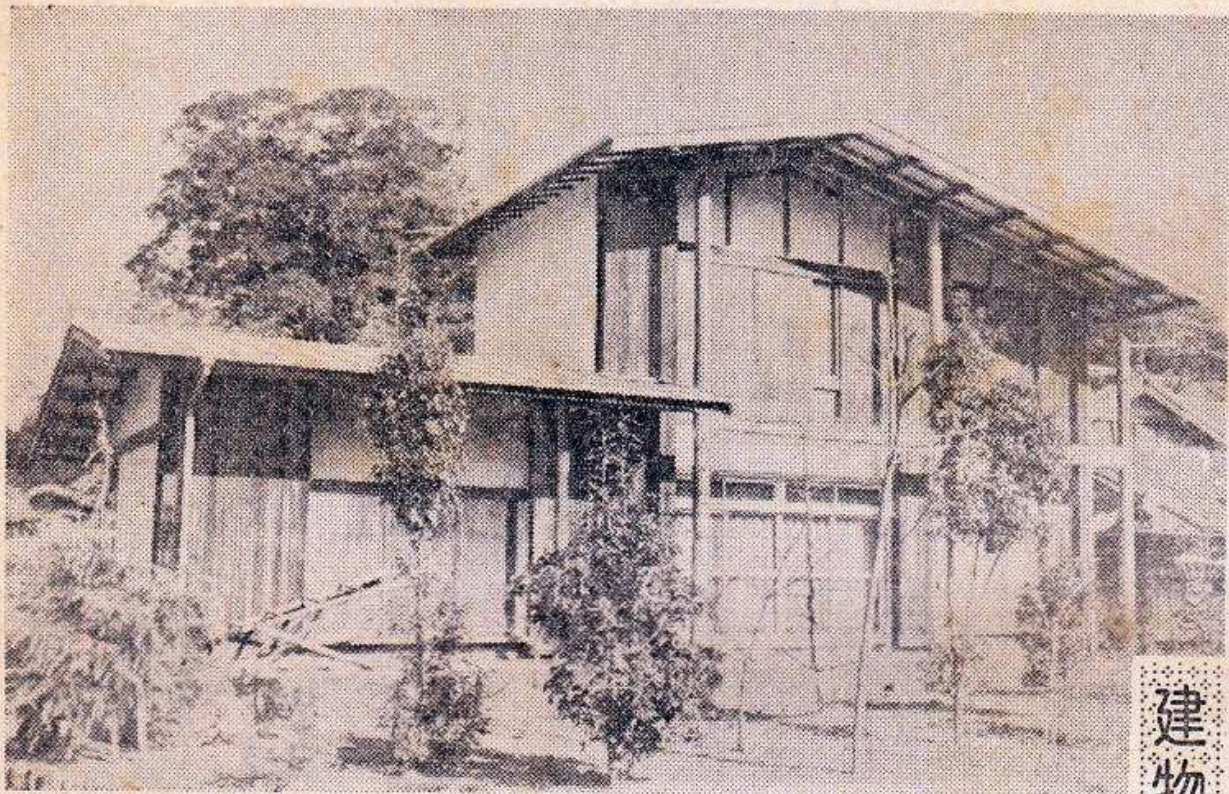
津久見市中田地区にあるこの建物 建築家「磯崎新」氏の初期作品ではないかと、建築主の奥様の発言から、家族の方が県土木など各所調べたが分からなかった。そして、建築士会津久見支部に調査・問い合わせがあり、情報の掲載をしています。朝日新聞によると昭和45年頃建設されたと思われます。一部設計図面があるのですが、設計者の氏名が記載されておらず、解決出来ていません。当時の事を知っている工事施工関係者、設計者など、情報提供をお願いします。

コメント：当時この建物が新聞に載るには、何かがあると思います。

(13) 大分

昭和46年(1971年)2月20日

土曜日



建物拝見

セメントの町・津久見に山小屋風

の住家。灰色でかすんだ町並みに馴染みを感じた。「鉄筋コンクリートで造った味のない建物に比べ、気分が落ち着いて住み心地は満点」と持主。

知人の建築技師に頼んだら、この家を造ってくれたという。同技師がヨーロッパ旅行したとき、冷たい

感じのコンクリートの建物群の中で、スイスの山小屋がとても印象的だった。それに似せたい。一階は洋間、茶室兼用の和室、合所、浴室洗面所。二階は和室と洋間の二部屋。

開放的気分を満喫

山小屋住宅 (津久見市)

日が十分さしこむよう出来るだけ窓を大きくし、天井は必要以上に高い。開放的気分が満喫できる。材料はスギとヒノキだけを使って、コンクリートやプラスチック製の化学板は避けた。おかげで材料集めに苦労したとか。もう一つの特徴は石灰などの粉じんに強いよう屋根のトタン板は厚めのものをのっけている。

屋根は山小屋風だが中身は合理的

(津久見市中田で)



掲載写真は1971年頃と、2019年5月の様子です





